

# 日中対照言語学会会報 (No.45)

2018年11月9日(金)発行

会報担当：加藤晴子 続三義

## 目次

1. 10月常務理事会拡大会議議事録
2. 日中対照言語学会第40回大会(2018年度冬季大会)開催のご案内

## 資料

3. 2018年月例会(2018年6月～2018年10月)

※ 事務局より

## 1. 10月常務理事会拡大会議議事録

慣例になっている10月の常務理事会拡大会議は、今年度はメール会議の形で開催された。メールは常務理事全員並びに会計と監査の諸氏に送信した。

### [審議事項]

#### 第40回大会(2018年度冬季大会)のプログラム

続三義副会長は、プログラム(案)を提出し、その間、論文発表者の会員から、発表時間の調整要請があったので、修正したプログラムを再提出し、了承された。

(メール会議では審議しなかった項目だが、大会当日、手伝い要員(受け付け、マイク係、タイムキーパー)4名が必要であり、それぞれに日当を支払い、別途弁当を支給すること、並びに大会当日に開催される拡大常務理事会で支給する弁当の数量に関して、当日、出席者の人数を確認した後決めることなど、慣例に従うことをここで報告する。)

### [報告事項]

#### ① 学会誌第21号『日中言語対照研究論集』原稿募集の進捗状況

合計29本の投稿があったことが王学群事務局長から報告され、そのうちの3本は、内容的には学会誌の方針と齟齬がありそうだと、王事務局長からコメントがあり、審議した結果、次期常務理事会で学会誌投稿の規定の修正を視野に入れるが、当面、査読者にゆだねることとなった。

#### ② 会費納入の状況

2018年10月15日現在で、総会員数は265名、新入会員が一般会員9名、院生会員が24名、会費納入済み会員が168名(新入会員33名を含む)であることが白石会計係より報告され、了承された。

#### ③ 学会誌第20号の送付状況

10月16日までに、合計176冊を送付済みであることの報告が竹島常務理事よりあった。

また、学術刊行物登録について、7月14日に郵便局に申請書類を提出したが、10月15日に認可が下りた旨の連絡があった。これにより今後の学会誌の送付にかかる経費が約2万円削減できることとなった。

今後、台湾や中国大陸などの海外にいる会員への学会誌送付に関しては、当面 SAL など  
で対応する。

会員名簿の取り扱いに関しては、これからのメーリングリストの修正なども考慮に入れ、  
当面、月1回の常務理事間での情報共有を続ける。

#### ④ その他

学会で進めている特集号の投稿状況について王学群事務局長から報告があり、まだ投稿数  
がやや少ないことから、締め切りを12月末にし、そして、関係者に声をかけるとともに会員の皆  
様にも積極的に投稿するよう呼びかけることとする。

## 2. 日中対照言語学会第40回大会（2018年度冬季大会）開催のご案内

### 記

日 時：2018年12月23日（日）午前9：20～午後5：30分まで

会 場：大阪産業大学梅田サテライト（JR大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、徒歩  
約5分、大阪駅前第三ビル19階。大阪市北区梅田1-1-3。電話06-6442-5522）

参加費：1,000円（会員、非会員共通）

### プ ロ グ ラ ム

受付（8：50～） 総合司会 丸尾 誠（名古屋大学）

大会開催校挨拶 張 黎（大阪産業大学） 9：20～9：25

開会の辞 彭 飛（京都外国語大学） 9：25～9：30

研究発表1. 台湾華語における“用”に関する一考察 9：30～10：00  
王 天保（淡江大学）

研究発表2. 『日中対照表現論』三部作とその連続性・関連性について 10：00～10：30  
藤田 昌志（三重大学）

以上司会 安本 真弓（跡見女子学園大学）

休憩（10分間 10：30～10：40）

研究発表3. 改善要求行為における意味公式の使用についての日中対照 10：40～11：10  
孫 爽（岡山大学大学院）

研究発表4. 逆接表現による言いさし文の日中対照研究  
—日本語の「けど」節と中国語の“虽然”節を例に— 11：10～11：40  
桑 忠林（名古屋大学大学院）

研究発表5. ほのめかし表現の日中対照研究 —依頼場面を中心に— 11：40～12：10  
頼 俊雯（大阪大学大学院）

以上司会 下地 早智子（神戸市外国語大学）

昼休み（60分間 ビルの階下に食堂街あり） 12：10～13：10

講演 日本語の文法形式とコミュニケーション 13：10～14：10  
森 篤嗣（京都外国語大学）

以上司会 彭 飛（京都外国語大学）

**研究発表 6.** 日中対照から見た移動動詞の意味と構文—「渡る」と“过”を中心に—  
張 岩 (神戸市外国語大学) 14:10-14:40

**研究発表 7.** 「手」と“手”の意味拡張に関する日中対照研究  
—認知言語学のアプローチから— 14:40-15:10  
李 旖旎 (北京郵電大学)

以上司会 竹島 毅 (大東文化大学)

休憩 (10 分間 : 15:10-15:20)

**研究発表 8.** 並列関係にある語・句・節の接続—接続詞“和”の誤用分析を切り口—  
張 恒悦 (大阪大学) 15:20-15:50

**研究発表 9.** 日中両言語における接続表現の対照研究  
—中国語の無標型接続表現とそれに対応する日本語を中心に—  
白 睿 (広島大学大学院) 15:50-16:20  
以上司会 王 学群 (東洋大学)

休憩 (10 分間 : 16:20-16:30)

**研究発表 10.** 現代蒙古語中汉语词汇借用的特点  
来 小子 (関西大学大学院) 16:30-17:00

**研究発表 11.** 日中翻訳—談話言語学の視点から  
—『天声人語』(2018.7.11)の中国語訳について— 17:00-17:30  
続 三義 (東洋大学)

以上司会 余 維 (関西外国語大学)

閉会の辞 加藤 晴子 (東京外国語大学) 17:30

※ 昼食の間、拡大常務理事会を開催予定。

※ 当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます (年会費 : 社会人 4,000 円、院生 2,000 円)。

注 : 講演及び研究発表の要旨は、学会の HP に掲載されるので、そちらをご参照ください。

<http://jccls.jp/>

### 3. 2018年度月例会 (2018年6月~2018年10月)

2018年6月16日 (土) 17:00~19:00

場 所 : 東洋大学経営学部会議室 (2号館12階資料室1)

発表者 : 張 愚 (九州大学)

テーマ : 日本史における漢語の品詞性をめぐる諸問題 —山田孝雄の漢語品詞論を視野に入れて—

2018年7月21日 (土) 17:00~19:00

場 所 : 東洋大学経営学部会議室 (2号館11階資料室)

発表者 : 王 学群 (東洋大学)

テーマ : 日中両言語におけるアスペクト表現と数量・時間量

2018年9月15日(土) 17:00~19:00

場 所：大東文化会館 K-402

発表者：蘇 秋韵(大東文化大学大学院)

テーマ：『火花』における空間移動を表す“过”の日中対照研究

2018年10月20日(土) 16:00~18:00

場 所：大東文化会館 K-402

発表者：孫 雲偉(大東文化大学大学院)

テーマ：明治末期における中国語教材仮名表記の考察 —鄭永邦の著書を中心に—

### 事務局より

- 1) 学会の入会は、日中対照言語学会ホームページ上で随時受け付けています。ただし、申し込みができない場合は王学群事務局長(ohgakubun@toyo.jp)、あるいは竹島毅常務理事(sisi@kkd.biglobe.ne.jp)までご連絡をください。年間会費は社会人4,000円、院生2,000円となっています。
- 2) 毎月の例会の開催は、郵送ではなく、メールにてご連絡させて頂いております。不明の方がいらっしゃいますので、ぜひお知らせいただきたくお願い申し上げます。また、メール変更につきましても、同様をお願い申し上げます。
- 3) 年間会費の納入につきましては、大会開催時に受け付けております。また、都合により出席されない会員に対しては次号の会報から請求書を送付させていただきますので、ご納入のほどよろしく願いいたします。
- 4) 学会の特集号「副詞について」の原稿募集を始めております。2016年度冬季大会のテーマは「副詞」となっておりましたが、大会発表者のテーマは必ずしも副詞そのものではなかったようです。2018年中に出版する予定となっておりますが、現時点では投稿の数がやや少なく、会員の皆様に積極的な投稿をお願いします。原稿の締切りは、2018年12月末日とします。



日中対照言語学会ホームページ <http://jclcls.jp>